

# サンピオティック農業資材による土作りマニュアル

## ～玉ねぎ編～



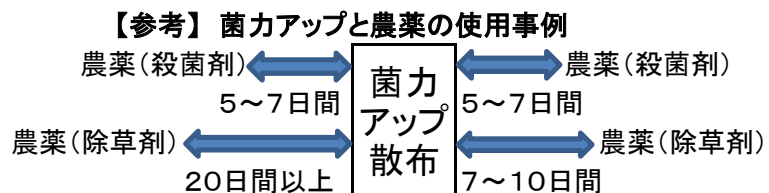
### ●基本の土づくり(土壌改良)(露地、マルチ共通)

1. まず微生物のエサとなる堆肥等を圃場に散布します。
  - ・ 60～70℃で発酵した中熟～完熟堆肥を使用します。
  - ・ C/Nが15～25の植物性のものが理想ですが、手に入らなければ畜産堆肥でも良いです。
  - ・ チッソ2.0%未満では1～3トン/10a、チッソ2.0%超では500kg～1トン/10aを施用します。
  - ・ 五穀堆肥を使用する場合は、30袋/10a以上です。
  - ・ その他の有機物、ワラや米ぬかなどは500kg/10a以下であれば堆肥と併用して構いません。(それ以上施用する場合は、養生期間を1カ月以上とする。)
2. 土壌分析の結果(または経験上)、必要とするミネラルや土壌改良資材を散布します。
  - ・ 玉ねぎの場合、石灰、苦土、ケイ酸、鉄は特に重要です。
  - ・ 有機苦土石灰(pH6.0未満の場合)、硫酸マグネシウム(pH6.0以上の場合)、転炉スラグ、ケイカルなどがお勧めです。硫マグなど水溶性資材は、4番の元肥と一緒に施用します。
  - ・ CECが低い場合は、ゼオライトやバーミキュライトも有効です。
3. 菌力アップ5L/10aを50～100倍希釈して全面散布後、トラクタで混和しすき込みます。その7～10日後(できれば雨の前日夕方)に、再度菌力アップを同要領で全面散布します。

#### 【重要】

すき込み後、菌力アップの微生物が定着し、有機物分解とともに有用物質(腐植など)の生産と

4. 元肥として有機百倍(露地100kg、マルチ150kg)と鈴成(100kg)を施用し、トラクタで混和後、畝立てします。出来れば、定植まで1週間空けます。  
※その後の追肥は、栽培状況および栽培基準に応じて適宜行います。  
※田んぼ裏作の排水不良園では、額縁明渠、弾丸暗渠、高畝など、排水対策を必ず行います。
5. 定植直後、菌力アップ100倍希釈液を根もとに灌水し、活着促進します。  
特にべと病など病害の発生が心配される圃場では、1週間空けて再度菌力アップを灌水します。
6. その後、月に1回程度、純正木酢液500倍と本格にがり500倍を葉面散布するとさらに生育が良く、病害にも強くなります。(非アルカリ性の農薬とは混合できます。)
7. 前作でべと病などが発生した圃場や、発生が心配される場合は、気温の上昇する2月中旬から1～2回程度、菌力アップ5L/10aを散布(灌水)します。



※上記の方法は、他の野菜作でも同様に参考になります。人参など根菜類や葉もの野菜などでもお試しください。